

7月 山行報告



■熊山(岡山)

- 山行日：5月13日(金)
- 参加者：L砂川(延) SL佐々木 大谷 尾越 田中(重) 田中(美) 田中(由) 苦瓜 藤本 村上 山本(清)
- 行動記録：JR姫路駅8:00発-JR熊山駅(9:00着・ストレッチ)9:15発~熊山登山口(9:25着)~展望台(東屋・10:25着)~熊山神社(11:10着)11:20発~三角点(11:45着)11:50発~展望所(12:10着)12:50発~弓削下山口(13:55着・ストレッチ)14:10発~JR万富駅(15:05着)15:10発-キリンビール岡山工場(15:15着)16:50発-JR万富駅(16:55着)17:05発-JR姫路駅(18:05着)

◆◆心はキリンビール

田中(美)

晴天に恵まれ、参加者全員姫路駅7番ホームに集合。熊山駅までは1時間程度かかりましたが話に花が咲き、早くも熊山駅へ。

駅でストレッチ、さあ出発だ。少し歩いただけなのに今日は気温が一段と高く、早くも汗ばんで来ました。幸いな事に熊山は木蔭が多く助かりました。熊山神社では本殿の両側に木製の牛・馬が祀られていて、“国家泰平・牛・馬安全の守護神”だそうです。

熊山の三角点を探すのですがなかなか見つかりません。リーダーの会長さんが“あったー”の声。何と無線中継所の鉄塔の後にあり、分かりにくい三角点にタッチをして元の道へ。山頂付近では視界は遠くまでハッキリと見え、吉井川も緑色で深さを感じました。昼食は展望台の管理棟で靴を脱いでゆっくりさせてもらいました。

龍神山を経て下山後一般道を歩く事30分、吉井川を渡りやっと万富駅へ。キリンビールの迎えのバスが待っていました。



今日は暑かったのでさぞかし全員(?)喉が渴いているのでは。キリンビール工場につくとビールの出来上がるまでの行程の説明を受け、やっと試飲の席につく。全員で乾杯、飲めない私ですが一口グイーと喉に流し込む、美味しい~試飲が終わると皆さんの顔がホンノリ赤く、口数も多くなっていました。

機嫌よく電車に乗り帰路につきました。リーダーさん、参加者の皆さんいろいろありがとうございました。



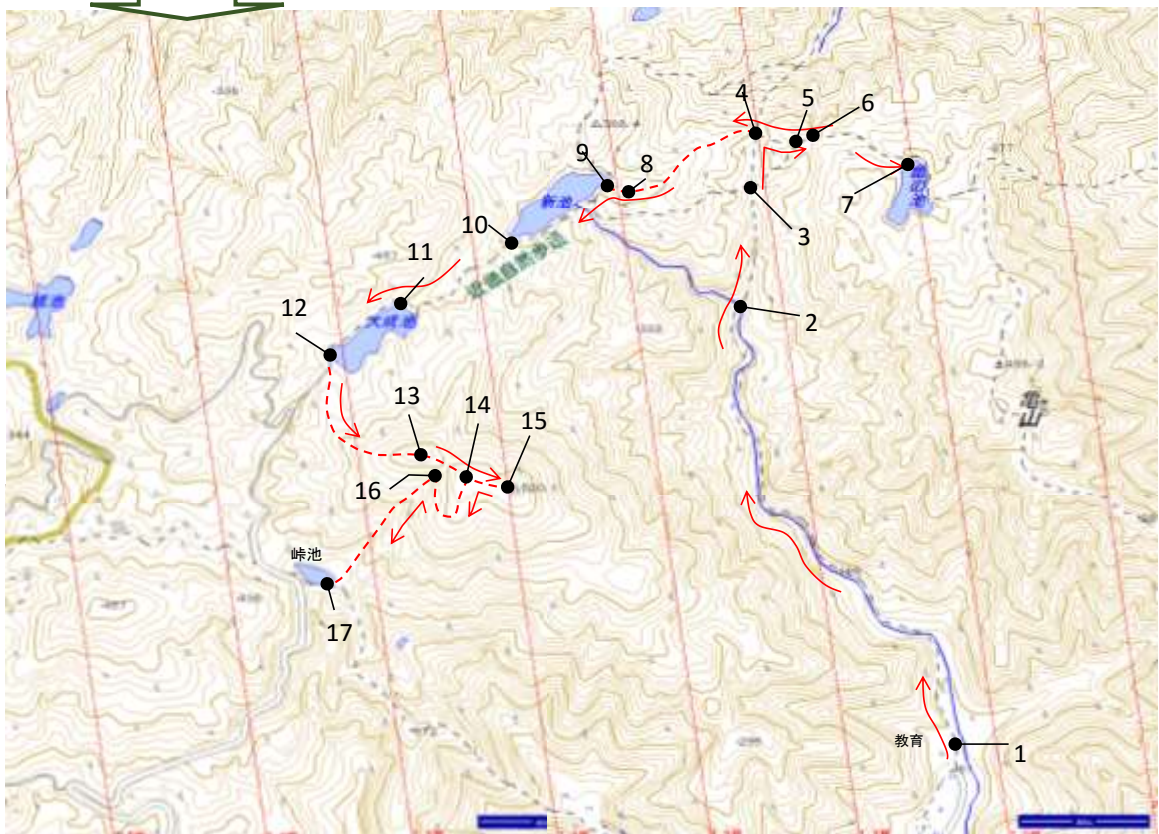
■大倉山(たつの)読図山行 (セカンドステップ講座受講者対象)

- 山 行 日 : 5月14日(土)
- 参 加 者 : La 和田 赤木 関山 田中(重)
Lb 佐々木 田中(由) 土屋 西脇
Lc 三木(悦) 藤本 藤原 山本(清)

行 動 記 録

場 所	A班		B班		C班	
	着	発	着	発	着	発
①キャンプ場	13:10			9:03		9:10
②水路合流点	12:30		9:45	9:50	9:56	9:58
④峠	12:10		10:10		10:27	10:33
⑦亀の池	11:30・昼食	11:58	10:30	10:43	10:56	10:59
⑨新池東端	10:57		11:25・昼食	11:53	11:28・昼食	12:00
⑫大成池西端	10:23	10:25	12:20		12:24	
⑮大倉山	9:52		13:00		13:04	13:08
⑰峠池東端	9:10	9:15	13:30		13:32	

地 形 図



◆◆実地体験しました！

西脇

今日は天気がいい～。たつの教育キャンプ場まで約1時間のドライブで直行。

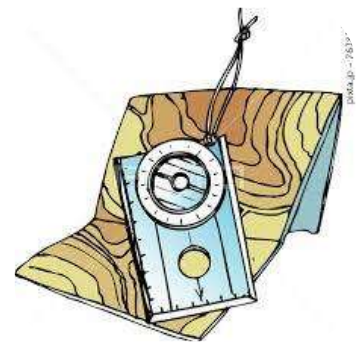
絶好の山行日和だが、‘実習’なので少し緊張してキャンプ場へ。

参加者9名、リーダー・サブリーダーの指導者が3名でA、B、Cの3班に分かれスタート。私はB班で教育キャンプ場をスタートだ。あらかじめ配布されていた地形図の1から17のポイントを、実習生3人が交互に先頭に立って位置を確認しながらの山行だ。B班は佐々木Lの指導をうけながら…。

まず、ポイント1～4の先導は田中(由)さん…早速シルバコンパスで方向確認し出発。

沢筋に沿って登っていく。もちろん 地形図を整置して位置確認を繰り返しながらである。沢は数日前の雨のせいか、流れ落ちる音が辺りにこだまし、気分最高！(足元は 少々ぬかるんではいるが…)ただ なんとなく違うのは、周囲の地形と地形図に目をやりながらの読図山行だから？

沢筋を登って行く途上だが…歩行コースでは右岸を歩くようになっているが実際は沢をクロスして左岸へ… また逆も…。‘おかしいな？’の問いに指導者から 歩行コース図は実地歩行調査によるものでないので正しくはない…。また、沢幅が狭いと表示はされていない…。とのアドバイスあり。実際にポイント2からの歩行コースに平行して、地形図に表示はないが亀の池からの水の流れがあり。(…先日の雨で、亀の池からの放流があったから…)。



ポイント4～7の先導は土屋さん。次にポイント7～4は私が先導。先導はコンパスでの方向と地形図での位置確認をする。…やはり読図訓練は気に入る。

亀の池、新池、大成池、峠池、山間地の灌漑池は緑を映し気が和みました。新池の堤防で食べた昼ごはんは美味しかった！

お陰さまでメンバー、指導者にめぐまれ、無事終着ポイントに到着。

今回、読図以外で体験したことは‘山ヒル’…。この季節ヒルに注意しなくてはということだが、山行経験が浅いせいで、気にかけていなかった。

朝、キャンプ場でスプレー対策、スパッツ着装をされている参加者をみたが、特に意識せず出発。休憩時に指導者からヒルチェックを助言され、またB班で靴についたヒルが発見されたりした。私は亀の池でヒルチェックし、裾を靴下に入れこんでヒルが発見されやすくした。山行終着点で靴、裾をチェックしたがヒルはいなかった…。よかった。

…自宅に戻り靴を脱ぎ靴下に目をやると、アア～、左外くるぶしあたりがベツリと赤くなっていた。あわてて患部をみると、まだ血が……。

今回、アドバイスをいただいた指導者の皆さま 大変ありがとうございました。参加の皆さん ありがとうございました。



■どんづる峯～二上山(女性委員会)

- 山 行 日 : 5 月 1 5 日 (日)
- 参 加 者 : La 瀧原 SLa 待場 乙坂 貝塚(陽) 川上 木村 田中(美)
橋本(万) 藤原 山本(清)
Lb 三木(悦) SLb 尾内 有本 島谷 田中(由) 土井 苦瓜
矢根 山下(純)
- 行 動 記 録 : ダイヤモンドトレイル起点 9:10 発～どんづる峯(9:30 着)9:45 発～ダイヤモンドトレイル北入口(9:55 着)～万葉の森(11:35 着・昼食)12:05 発～馬の背(12:15 着)12:25 発～雄岳(12:38 着)12:45 発～雌岳(13:10 着)13:25 発～岩屋(13:40 着)13:42 発～當麻寺(14:35 着)15:12 発

◆◆万葉の二上山

木村

会報の山行案内を見て、この山なんて読むのかな？と思うことがあります。今回もどんな山かなとスマホで「ふたかみやま」で検索すると出たので、そう思い込んでいたら実は「にじょうざん」でした。



後で調べてみると、そのしなやかな山容は万葉の昔から「ふたかみやま」として多くの歌に詠まれてきたそうです。読み方が変わってきた山もあるのですね。

当日はまず、ダイヤモンドトレイル起点の「どんづる峯」へ。ストレッチの後、少し歩いたら、いきなり白い岩肌が現れました。二上山の噴火によってできた真っ白な凝灰岩の層があちらこちらに見られ、それらが周囲の樹木に囲まれて今までに見たことのない景色でした。ここから、広い車道の端を歩いてダイトレ北入口の山道に入りました。

今回の山行を振り返ってみると、登山道はよく整備されていましたが、丸太階段が多かったです。目の前の急坂も階段、下りもまた階段というように。ところどころに咲く「もちつつじ」の花に癒され、時おり吹く心地よい風に癒されて歩きました。

馬の背近くで昼食をとり、「雄岳」へ。山頂近くには大津の皇子の墓所がありました。

馬の背を下り、階段を上って「雌岳」へ。標高は雄岳よりも低いのですが、公園のようによく整備されており、展望もよく大和三山や葛城山も見えました。

下りは當麻寺の境内を散策して帰路に着きました。また機会があれば、金剛山、岩湧山などダイヤモンドトレイル上の山に登ってみたいと思います。

リーダー初めご一緒させていただいた皆さん、ありがとうございました。



■那須岳&クマガイソウ群生の郷を尋ねる (ゆっくりズム山行)

- 山 行 日：5月14日(土)～17日(火)
- 参 加 者：La 渡邊(俊) SLa 荘所 金島 澤田(卓) 砂川(美)
Lb 澤田(律) SLb 西口 狩集 田羅間(易) 田羅間(勤) 開

《クマガイソウ》

● 行動記録：

(14日) JR 姫路駅 6:40 発 - JR 東京駅 10:12 発 - JR 那須塩原駅 (11:21 着) 11:30 発 - 小山農園 (12:45 着) 13:55 発 - 湯荘白樺宿 (14:15 着)

(15日・B班) 湯荘白樺宿 8:05 発 - ロープウェイ山麓駅 (9:00 着) 9:40 発 - ロープウェイ山上駅 (9:50 着) 10:05 発 - 茶臼岳 (11:05 着) 11:15 発 - 避難小屋分岐 (11:45 着・昼食) 12:10 発 - 牛ヶ首 (12:30 着) 12:40 発 - 姥ヶ平 (13:00 着) 13:05 発 - 沼原・三斗小屋分岐 (14:20 着) 14:25 発 - 三斗小屋温泉煙草屋宿 (14:40 着)

◆◆クマガイソウと茶臼岳山行

開

【14日】

東海道新幹線と東北新幹線を乗り継いで那須塩原駅に11時21分に到着。

駅からタクシーで小山農園に、第一目的のクマガイソウを見に行きました。日留賀岳(ひるがだけ)の登山口に小山農園があり、登山者の姿もちろほら見えまして。どこに咲いているのだろうと思ひながら、小山農園の奥さんの案内についていくと、建物裏手の杉林の裾に一面クマガイソウが咲いていました。2枚のスカートの中にずっと立った貴婦人のようで、たまに杉木立からさす日光がスポットライトのようで見事なものでした。ちょうど時期が良くて満開でした。

お花を見せて貰った後、行者ニンニクの天ぷらやお漬物、お茶まで頂いて恐縮してしまいました。

旅館のバスのお迎えで湯荘白樺へ入りました。落ち着いてから外湯のむじなの湯に入り、内湯で温泉泥パックをし、露天風呂にも入りと、温泉三昧でお肌がツルツルになったような気がします。

【15日】

タクシーで茶臼岳ロープウェイの山麓駅へ。ロープウェイの車掌さんのユーモアたっぷりの説明を聞きながら、昨日は見られなかったと言う景色も堪能しながら山頂駅に到着。

観光客の方たちも、山に登っておられて驚きました。石段を登って途中でショートコースと迂回コースに分かれて三斗小屋温泉を目指します。茶臼岳山頂からお鉢を周り、峰の茶屋跡分岐でお昼をしました。



旅館で作って貰ったおにぎりが大きくて1個で満腹、とてもおいしかったです。

牛ヶ首(ここから見た茶臼岳が牛の首に見えるらしいのですが、私は解りませんでした。) 姥ヶ平、ひょうたん池(逆さ茶臼岳が見えました。)を通り、三斗小屋温泉の煙草屋旅館に着きました。露天風呂が女性の入る時間帯だったので早速入りに行きました。脱衣所だけ囲ってあって、お風呂にはないので恥ずかしかったのですが、目の前の山々を見ながら入っていると、自然に帰ったようで、恥ずかしさはなくなりました。夜の星空を期待していたのですが、夕方から雲が出て見えませんでした。残念。

今回の山行は、お天気にも恵まれ、お花と温泉を堪能できとても満足でした。

皆さん有難うございました。

● 行動記録：

- (16日) 三斗小屋(宿)7:30 発～隠居蔵(9:20 着)9:30 発～熊見曾根(10:25 着)10:35 発～朝日岳(11:05 着)11:15 発～峰の茶屋跡分岐(12:10 着)12:15 発～峰の茶屋P(13:20 着)～ロープウェイ山麓駅(13:35 着)14:40 発～北温泉(宿)(15:00 着)
- (17日) 北温泉(宿)8:50 発～駒止めの滝展望台(9:05 着)～北温泉入口(9:25 着)～ツツジ園駐車場(10:20 着)10:25 発～ツツジ園吊り橋(11:20 着)～殺生石經由鹿の湯(12:00 着)12:45 発－J R那須塩原駅 16:02 発－J R東京駅(17:16 着)17:33 発－J R大阪駅(20:26 着)20:52 発－J R姫路駅(21:26 着)

◆◆そして朝日岳に

金島

私たち、なんて運がいいでしょう。山行3日目、今日も素晴らしい良いお天気です。那須塩原に入って今日まで一片のくもりのない晴天の中での山行でした。

見晴絶大の露天風呂がある三斗小屋煙草屋旅館は私の感ずる限り山奥の宿泊所にしては比類を見ない清潔な山小屋旅館であったように思います。声高に気丈夫そうな女将のお接待を十分いただき、朝8時今日の山、朝日岳に向かって出発です。

建物のすぐ裏から山道に取りつき長い階段です。しばらく登ると温泉神社、その先、林の中を抜けると目の前が開けてきました。山道は硫黄の匂いと白く湯煙が立ち上がり、気温も相当高く蒸し暑い感じですが、わらびやぜんまいがそこかしこに生え山菜採りにはたまらない山と見ました。てっぺんに手の届きそうな身丈のずいぶん低い桜の木、シャクナゲ早春のこの地ではやっとはころびかけた花卉に“来週は満開になるだろう、来週もう一度こようか・・・”などと口々に勝手なおしゃべりを楽しみながらのゆっくりリズム山行です。

少しきつい坂を上り詰めると隠居蔵1819mに到着。360度見渡せる素晴らしい眺



めで休憩です。昨日登ってきた茶臼岳が目の前に見えます。この山中からも湯煙がたなびいていて、昔、母が口ずさんでいた“♪やま～の、けむりのほのぼのと～”はこんな山の歌ではなかったのかしら？・・・50年前に亡くなった母を思い出させてくれました。

足場の悪いガレ場を行きつくと熊見曾根ピークです。左にとれば3本槍、私たちは正面の朝日岳に向かいます。風が相当強く吹いていて背を低くして歩かないとぶっ倒れそうです。

声が風に流れ仲間の声が聞き取りにくいほどです。今朝、出発の時仰いだ遠い朝日岳が今私たちの目の前にそびえています。ザックをその場所に置き朝日岳には空身で登ります。

1896m朝日岳登頂。記念撮影もそこそこに少し曇りの出かけた山を早々に下山です。半端なく続く傾斜のきつい鎖場を私たちは用心しながらやっと正午すぎ昨日の分岐、峰の茶屋に到着。それから又1時間余りロープウェイ山麓駅に下りるころには山全体に暗雲がかり大きな雨粒も落ちてきました。ロープウェイ山麓駅で昼食休憩後、今夜の宿、北温泉にタクシーで向かいました。

17日山行最終日、予報通りで朝から大雨の中の出発です。秘湯北温泉は造り構えも相当古く歴史に上るほどの老舗の温泉宿でした。自家発電か宿全体が薄暗く重厚な感じ。逗留の湯治客もいて秘湯を感じます。

私たちは本日の最終予定、自然研究路は林の中のお散歩です。途中矢隠岩というところで大きな岩があり、その昔与一という若者が矢の修行をしていたところの説明を見つけ、源平合戦で名を遺した那須与一はこの地の若者であったことを知りました。

降り止まない雨の中を2時間ほど歩くとやがて眼の中が真っ赤になるほどのつつじ園に入っていました。圧巻です。霧雨の中に浮かび出たつつじ園は本当に見事な花園でした。

雨に濡れて冷えた体を鹿の湯温泉で温めた後、帰路那須塩原駅に向かいました。楽しかった。本当に楽しかった。右足故障の私でしたが今回その痛さも感じず楽しい4日間を本当にありがとうございました。



《シャクナゲ》

■大台ヶ原 シャクナゲ、シロヤシオを楽しみに歩く

- 山行日：5月21日(土)～22日(日)
- 参加者：L 砂川(延) SL 澤田(律) 赤木 垣内 田中(重) 田中(由) 平井(み) 平石 藤本 藤原 森下 山本(清)

- 行動記録：

(21日) 山陽電車高砂駅 8:00 発 - J R 宝殿駅(8:15 着) - 善防公民館(8:45 着) - 大台ヶ原駐車場(12:35 着) 13:20 発～日出ヶ岳(14:05 着) 14:15 発～シャクナゲ平(15:00 着) 15:10 発～シャクナゲ坂(16:00 着) 16:10 発～栗谷小屋(16:35 着)

(22日) 栗谷小屋 7:15 発～避難小屋(7:22 着)～シャクナゲ坂(7:40 着) 7:55 発～シャクナゲ森(8:15 着) 8:25 発～日出ヶ岳(11:00 着) 11:30 発～正木峠(11:50 着)～正木ヶ原(12:10 着)～尾鷲辻(12:20 着) 12:30 発～大台ヶ原駐車場(13:15 着) 13:25 発 - J R 宝殿駅(18:45 着)

◆◆広い尾根のシロヤシオ

赤木

【21日】

大台ヶ原ビジターセンターの駐車場は、ほぼ満杯だったが辛うじて駐車できた。週末にこの晴天、しかもシャクナゲの咲くこの時期、当たり前のことなのかもしれない。

ビジターセンター横のベンチで昼食を済ませ、さあ、出発だ(13時15分)針葉樹林の明るく広い道を木漏れ日を一杯に浴びながら行く、鶯が鳴く風がスーと渡る「爽やかー」と声がもれる。

頂上直下の急な木道の階段をのぼると日出ヶ岳(14時5分)、乾いた平らな頂上は、360度の展望が楽しめた。はるか南に尾鷲湾がかすみ熊野灘は空と溶け合う、西にはあの懐かしい大峰の大普賢から連なる峰々、すこし奥には山上ヶ岳が薄く見える。

大杉谷方面に道を東にとりしばらく進むと樹林帯に入り道も細くなる。岩や倒木が道を塞ぐようになると、茜色の花が目飛び込むシャクナゲだ。半日陰の女王は光を求めるように枝を四方にひろげ、光沢のあるやや細長い葉の上に鮮やかな茜の花を3~4個つけている。最初は花が現れるたびワーワー感嘆詞をあげていたが、やがて花だらけになってくる、濃い紅の蕾、開花の茜色、薄紅に少しくすんだもの、白っぽくしぼんだもの、いろいろ変化に富んでいて面白い。道は尾根伝いに岩や木の根、倒木や苔の中をどんどん下っている両側の斜面はかなり急で、花に気を取られているとヒヤッとするときもある。

なにかパーッと赤いかたまりが目にはいつてきた、アカヤシオだ、太陽の光を一杯に浴び思い切り背を伸ばし赤いかたまりを樹冠にひろげている、葉はまだあまり出ていない。

苔むした半日陰に妖艶に咲くシャクナゲと違い、青空に向かって思い切り咲くつつじの仲間を見ると心にしみる。



シャクナゲ平、シャクナゲ坂とどんどん下り、今夜の宿、栗谷小屋に着いた(16時35分)。

この小屋は風呂もあり部屋もゆったりとし快適であった。風呂上がりビールで乾杯とビールを調達し横を見るとおつまみが大きな袋に入っている。小屋の大將に「これいくらですか」と聞けば、「どうぞ、食べてください」「えー、いいで

すか」「どうぞどうぞ」気の弱い私は袋の中から2つほど取ってテラスで乾杯としゃれ込んだ、と、大將、袋をわしづかみにしてテラスのテーブルの上へドーンと置く、おお、太っ腹、どこに幸せがあるかわからない。

【22日】

今日も晴れ、元気に栗谷小屋を出発した(7時15分)。道路を少し歩くと本道の登山口に出る。急な階段をのぼり少し行くと避難小屋がありテント場になる。針葉樹の道をのぼって行くと昨日と同じ道に合流した。あの道をのぼり返すのかと、うんざりしながら進んでいくと、シャクナゲ坂から少し行ったところで、登山道から左にそれ、山の斜面に入って行った。そう言えば、砂川会長が小屋の大將と地図を見ながら、何かしきりに打ち合わせをしていた。

広々とした斜面を目印のテープをたよりにトラバスしていく。10分ほどでシャクナゲの森についた(シャクナゲは一本もないが)、どんどん進みやがて谷におりる。ここがネコシ谷、ゆっくり休憩し、谷を渡りゆるやかな尾根にとりつく。

下草のない明るい尾根を行けば、目の前にシロヤシオの花、また行けば行くほどシロヤシオの花、うす緑の小さな若葉の上になお小さな白い花、光に輝く小さな花、純白で清楚で可憐な花、この花を表すのにどんな言葉がまだあるのだろうか。よく見れば尾根全体がシロヤシオの木のようなのである。花の咲いていない木も葉や幹の様子が同じに見える、かなり太い木もある、シロヤシオに埋もれた尾根を想像すると、身も心もふるえる。



だんだん尾根がせばまるあたりからブナも混じりだした。ミヤコササが地表を覆うようになるとすぐに日出ヶ岳への道にとびだした。そこから頂上はすぐそこだ。

昼食後、正木ヶ原へ向かう、広々とした台地を吹き抜ける風を受けながら、木道はトウヒの立ち枯れやミヤコササの中を行く、正木ヶ原から尾鷲が辻へと進みそこから大台ヶ原ビジターセンターへと向かう。

樹林帯を行けば春蟬のこえ、コゲラかアオゲラかアカゲラかの、コ、コ、コ・・・と木の幹をうつドラミングの音、名も判らない鳥の声、いろんな木や草花、大台ヶ原の豊かさを感じる。しかし、道のところどころにある案内板には環境の悪化がうたわれている。

大自然の大きなうねりは人の手の届かない神の領域かもしれない。全員、無事にビジターセンター到着(13時15分)大台ヶ原を満喫し、満ち足りた気持ちで乗車。

これから長い帰路運転して戴く砂川会長には大変申し訳ないけれど、心地よい振動に顔を閉じれば甦る、あの『広い尾根のシロヤシオ』。



■大峰奥駈道を歩く#3・・・八経ヶ岳～行仙岳

- 山 行 日：5月20日(金)～23日(月)
- 参 加 者：L上田 SL待場 大谷 河合 瀧原 田羅間(易) 三木(悦) 村上

● 行 動 記 録：

(20日) 行者還トンネル西口 11:55～奥駈道出合(13:00着)13:10発～聖宝の宿跡 14:15
～弥山小屋泊(15:15着)

(21日) 弥山小屋 4:55～八経ヶ岳(5:30着)5:40発～明星ヶ岳 6:15～舟ノ埤(8:10着)8:20
発～楊枝ヶ宿小屋(8:55着)9:25発～孔雀覗(11:15着)11:20発～釈迦ヶ岳(13:20
着)13:40発～深仙小屋泊(14:45着)

◆◆新緑の大峰奥駈道を八経ヶ岳、釈迦ヶ岳をこえて深仙小屋へ 村上

5月20日五月晴。下市口駅からトンネル西口までのタクシー移動は緑おりなす山また山だ。登山口から奥駈道出合までは約1時間の一気の登りで、いつものことだが息が整うまではシンドイ。小休止の時ピンクのシャクナゲが美しい。シロヤシオの古木も圧巻だ。

弁天の森に出るころには、尾根を渡る風もさわやかだ。聖宝ノ宿跡から弥山へは急坂が続く。弥山小屋への木道を登りつめると小鳥のさえざりに心いやされる。弥山小屋では夕食のあとなんともいえない美しい月を皆で眺める。



5月21日晴。5月の連休には雪をかぶった弥山ですが、今朝の気温は6度、風が冷たい。朝日を眺めながら八経ヶ岳(1915.2m)へむかう。山頂で小休止。明星ヶ岳を通るころには雲海に浮かぶ山々がなんともいえず一枚の日本画をみているようです。禅師ノ森からは何箇所も登山道ごと崩壊していたり、急な岩場があったり、重いリュックを背負った足元は不安定で前後をあげながら一歩一歩緊張の連続です。

楊枝ヶ宿小屋ではゆっくりのコーヒータイム(昼食)だが、どこで休んでも小さい虫が気になる。鳥の水場では冷水に疲れもいやされほっと一息。孔雀覗は目もくらむ絶壁でした。

岩場が続き、キレットが口を開ける两部分けをくんだり急坂を上りきると釈迦ヶ岳(1799.9m)頂上にたどりつく。360度、峰々がおりなす濃淡の展望がすばらしくつらい登山もこの絶景があるから……。かくし水に寄り、それぞれの容器に水を満タンにして今日の深仙小屋に向かう。小屋では管理グループの方がおられて全員が小屋に泊まれることとなり安堵する。

(22日) 深仙小屋 5:35 発～大日岳(6:00 着)6:10 発～太古ノ辻 6:40～天狗山(7:50 着)8:00 発～嫁越峠(8:35 着)8:55 発～地藏岳(9:20 着)9:35 発～乾光門(10:50 着)11:00 発～鉦誠無漏岳(12:05 着)12:15 発～持経ノ宿(13:35 着)13:45 発～平治ノ宿小屋泊(14:50 着)

(23日) 平治ノ宿小屋 5:35 発～転法輪岳(6:00 着)6:10 発～俱利伽羅岳(6:40 着)6:55 発～行仙岳(8:25 着)8:45 発～佐田辻(9:05 着)9:15 発～白谷トンネル東口 10:10

◆◆大日岳から行仙岳へ花の奥駈道を縦走する

田羅間(易)

5月22日ストレッチをして深仙小屋を出発し、道ばたにザックを置き、空身で大日岳に登る。高低差はそれほどないが岩山で足を置く場所を確認しつつ注意して登る。頂上の大日如来様の優しいお顔、見晴らしの良さ、一日の始まりを祝ってくれる様な思いでした。

シロヤシオ、アカヤシオを右に左に眺めつつ歩き、シャクナゲの花まで咲き誇る道に行く。地藏岳の頂上には誰が置いたかまだ新しい金ぴかの小さなお地藏さまがあった。

鉦誠無漏岳(しょうじょむろうだけ)を少し過ぎると垂直10mぐらいの鎖場に出る。鎖や木の根をつかみつつ岩に足場を探し、慎重に下って行く。前日小屋近くでテントを張ったガイドと女性のグループにぬきつ、ぬかれつしながら歩く。

持経ノ宿(じきょうのしゅく)近くの水場で水を補給。前日のポトポトと違いあふれる水、顔を洗うと冷たくて気持ちがいい。そこからもうひと踏ん張りして平治の宿小屋へ。そこでさわやかなイケメンの若者(21歳、数か月山歩きをしている。弥山小屋から1日で歩いて来たという)との出会いがある。

5月23日避難小屋とはいえ毛布もあり、ゆったりと眠ることができ、少し寝過ごしてしまい、30分遅れで出発。転法輪岳(てんほうりんだけ)、俱利伽羅岳(くりからだけ)と多少のアップダウンはあるものの順調に進む。行仙岳の急登は前の人足元を見つつ、1歩、1歩あえぎつつ登る。

そこからはほぼ下り、時間を気にしつつ歩く。林道から国道へ出るが、タクシーは見え

ず、電話しようにも圏外。どうしようかと思いつつ歩いていくとタクシーがいてほっとする。会えたからよかったものの、携帯は通じず、人里まではるか遠く、歩くとなると大変な所であった。しかも他の車は通らず、夏日の気温と太陽、きっと皆バテていただろう。

温泉につかり、昼食をとり、人心地着いた。私には初めての太峰奥駈道の山行。厳しい道であったが天候に恵まれ、花々に囲まれて歩くことができ最高の山行でした。



■氷ノ山登山集会 兵庫労山結成50周年記念

- 山 行 日：5月28日(土)～29日(日)
- 「氷ノ山登山集会実行委員会」 実行委員 砂川(延)

- テント組参加者：L 和田 SL 須増 上田 大谷 尾越 澤田(律) 平井 本多 待場 三木(悦)
- 行 動 記 録：
 - (28日) JR宝殿駅9:10 発～奈良尾(11:30 着)～旧熊次小(11:35 着・テント設営・昼食 12:40 発～奈良尾 12:45 発～ハチ高原(13:00 着)～山菜採り 14:15 発～奈良尾(14:30 着)～大交流集会・旧熊次小体育館 17:30～20:00
 - (29日) 旧熊次小 6:30 発～東尾根登山口(6:40 着)6:55 発～東尾根避難小屋(7:25 着)7:30 発～神大ヒュッテ(8:50 着)9:10 発～氷ノ山頂上(9:35 着)9:45 発～氷ノ山越(10:45 着 11:00 発)～地藏堂 11:45～親水公園登山口(12:20 着 12:30 発)～旧熊次小(13:00 着・昼食、テント撤収)～奈良尾 14:45 発～途中入浴～JR宝殿駅(17:45 着)～山陽電車高砂駅(18:00 着)

◆◆兵庫労山50周年氷ノ山登山集会に参加して

平井(正)

5月28日、29日の2日間、兵庫労山結成50周年記念「氷ノ山登山集会」に参加しました。

私は28日9時高砂駅に集合でしたが、早速会長から8時50分に「まだですか！」の催促の電話に会長の意気込みを感じながら、速足で集合場所に向かいました。

途中貝塚さん宅でテント等を積み、満員御礼のマイクロバスで養父市関宮町奈良尾集落に11時過ぎ到着、旧小学校グラウンドに3張りの高御位テントを設営しました。

天気は兵庫労山50周年を祝う真っ青な晴天、爽やかな春風吹く中、私達はハチ高原に1時間の山菜採り(少し時間短かった)、まるでウィンドウズ95のデスクトップの壁紙を

思わず、新緑のハチ高原でしたが獲物(ワラビ、ウド、スズコ等)は思うようにはゲット出来ず。採取中、恐れ多くも会員800名規模、「明昭山の会」前会長さんにウドの見つけ方、食べ方をレクチャー頂きました。

午後5時頃から三線奏者関山さん率いる「高御位沖縄芸能団」リハーサル、本番に向け全員猛特訓！体育館では300名近い大交流会の始まり、始まり！！

今、人と人の関係が益々希薄になっていく



現在に、労山で繋がる団塊以降の世代が集結、日本列島改造論を彷彿とさせるような、かつての学生運動を思わせる。今日の集まりに胸熱くなり、フルスイング出来なかった当時の自分を悔しがる私がありました。

さて今回は淡路労山、南但山歩会の仲間の慰霊碑への慰霊登山も兼ねていました。

遭難の状況説明、捜索の状況を実行委員さんよりお聞きし、決して山で遭難しないぞ！！又、延べ何百人にも及ぶ長期間の捜索の苦労、自然の怖さとともに、人の心を癒してくれる山と共存共栄しなければならないと、再認識させて頂きました。

魅力的なハーモニカの調べ、軽快なマジックの披露、関山さんの素晴らしい三線の調べと心温まり癒される表情。高御位山遊会員の団結したバックコーラス、キュートな着ぐるみ桃レンジャーのMCに入社当時の大宴会、「サラリーマンは気楽な稼業ときたもんだ」クレージーキャッツ植木等のギャグを思い出し、遠き戻れない若き日を、懐かしんだ時でもありました。

感想文のコーヒブレイク (深夜執筆中 懐メロに目覚めました。1960年代名曲)
口ずさむのはタダです。関西人はタダに弱い

「真夜中のギター」 千賀かおる (1969年8月10日リリース)

【歌詞】

街のどこかに寂しがりやがひとり
今にも泣きそうにギターを弾いている
愛をなくして 何かを求めて さまよう
似た者同士なのね
ここへおいでよ
夜は冷たく長い
黙って夜明けまでギターを弾こうよ



次回感想文時は、高木麻早「思い出が多すぎて」又は、渡辺真知子「迷い道」

2日目は4時30分起床、いつまでも魅力的な女性陣振る舞いのオープンサンドイッチ(和食の手巻きずし?)を美味しく頂き、6時30分から元気一杯氷ノ山登山でした。

ウグイス、ホトトギス、カッコー、キツツキのBGMで急坂も足取り軽く、すいすい東尾根避難小屋を越え8時50分うわさに聞いた神大ヒュッテが出迎えてくれました。

真っ暗な室内には、先客の夕べ泊まったであろうパーティーがおられ、温かく迎えてくれました。周りはブナの若葉にあふれ、思った通りの良いヒュッテで機会あれば一泊したくなりました。15分程休み、いざ氷ノ山山頂避難小屋に向かいました。

途中、登山道真ん中にクマの糞あり、今さらながら1500m級の山を認識しました。

9時40分風きつい頂上到着、360度の大自然、好天に恵まれ生きている幸せ、達成感を満喫させてもらいました。

下山中、登山道で小水おもらしの登山客を横目でにらみつけ下山。

私は昨日の山菜採りに満足できなくて、帰りがけにスズコを見つけては採取し、手の中に一杯とりました。

下山中、ぬかるみですってんころりん、「スズコの祟りだ！」とのヤジを聞きました。

因みに帰宅早々、スズコの皮をむき湯で煮ること15分。マヨネーズ片手に冷やしたビールで美味しいスズコを口にポン！これは甘くないサトウキビだ！！生育しすぎていて繊維質ばかり。

悔しいですがポイしちゃいました。やはり登山道周辺のスズコを大慌てで採るのは天罰が下りました。反省しきり。

私的には珍しく、左足も軽くなった状態となり急遽頂いた沖縄の天然塩で治療、完治しました。

下山後またまた魅力的な女性陣で、おいしいやきもち入りぜんざいを3杯も頂き、まるでハーレムにいるような、幸せな気分には浸っていました。帰りの太閤の湯で大汗を流し帰路につきました。

20年ぶりの氷ノ山登山、兵庫労山の結束を強く感じ、仲間に恵まれ、自然の恵みをエネルギーに、山の良さ楽しさ、癒され感を、これからの若者に伝授したいと思います。

- 民宿泊参加者：L 森本 SL 関山 乙坂 島谷 谷口 土井 吉村
- 行 動 記 録：奈良尾 6:25 発～奈良尾キャンプ場(6:40 着)6:45 発～東尾根登山口 6:50 発
(29日) ～東尾根避難小屋(7:35 着)7:30 発～神大ヒュッテ(8:50 着)9:10 発～氷ノ山
(9:45 着)9:50 発～氷ノ山越(10:45 着)11:15 発～小豆ころがし(12:25 着)
12:30 発～福定親水公園(12:50 着)13:00 発～奈良尾(13:30 着)

◆◆氷ノ山登山集會に参加して

乙坂

氷ノ山へは、スキーで訪れた事がありますが、新緑の山々を見たことが無い事と、募集タイトル、「兵庫労山発足50周年記念」を見て、次の開催は10年後、かなり先だな“今行かねば！”と思ってこの1泊2日の集會に参加しました。

私の選んだ日程は、1日目ハチ高原で山菜採り、2日目氷ノ山登山・民宿泊です。

山菜採りはどんな山菜が採れるのか楽しみでしたが、時期が少し遅かったのか…もう辺りはほとんど採り終えている感じでした。それでも何とかワラビを一束程見つけることが出来ました。

この山菜採りの時、明日登る「氷ノ山 山頂避難小屋」が遠く高く小さく見えて、登れるだろうか…と不安になりました。

その晩、大交流会が行われ、兵庫県には大小たくさんの登山会が有る事を知り驚きました。

そしてこの交流会のもう一つの目的「慰霊登山」についてのお話を聞いて、心が痛みました。

翌日、雲がほとんど無い青空が広がり気持ちいい天気でした。朝7時前から登り始め、神大ヒュッテ手前から10cm～20cm位の石がゴロゴロ敷き詰められているような箇所があり、足を捻りそうでした。



山頂避難小屋に着くと、なぜかここだけ風が強く、「100m上がる毎にマイナス0.6度だから寒いよ」と聞いていたのを肌で感じて寒かった。小屋にある温度計は15度を指していました。標高1500mなのでこの寒さに納得しました。

山頂からの眺めは最高で、ハチ北高原スキー場が見えました。美しく整備されているなあと感心しました。

お昼休憩の「氷ノ山越避難小屋」から雨が降り出し、カッパを着用。その後、大した降りにはならず1時間程で脱ぐ事が出来ました。滝や湧き水、整備された杉、はしごを上り下りして川を渡ったり、下山時は目でも楽しめたかな。

氷ノ山、山頂付近はゴロゴロした石が多く歩きづらい所もありましたが、比較的なだらかな斜面で登りやすく、滝が有り、湧き水が有り、樹木の種類が多く、森林風景を楽しむ美しい山と感じました。秋はどんな風景になるのか、また興味が湧きました。

Lの森本さん、SLとカメラ担当の関山さん、途中からこのグループに合流して下さった上田さん、須増さん、今回もまた安心してこの山行を楽しめました。ありがとうございました。



■ 段ヶ峰(宍粟50名山) 生野登山口から段ヶ峰へ

- 山行日：6月3日(金)
- 参加者：L野村 SL和田 狩集 田中(重) 田中(美) 田中(由) 西川 西口 開山本(清)

- 行動記録：生野登山口(9:05着)9:15発～達磨ヶ峰(10:00着)10:10発～915m地点(10:25着)～フトウガ峰(11:40着)11:45発～段ヶ峰(12:30着)13:05発～フトウガ峰(13:45着)～最低のコル(14:15着)14:25発～達磨ヶ峰(15:10着)15:20発～生野登山口(15:55着)

生野登山口～段ヶ峰～生野登山口



◆◆6年前に登った山にもう一度！！

西口



達磨ヶ峰までの急登を頑張れば、ご褒美の絶景を見られるのを期待してエントリした。

お天気は申し分のない山行日和に嬉しさを覚える。

自家用車3台に分乗して登山口に到着した。いつものようにストレッチをして準備を整えて登山を開始する。最初は和やかなムードだったが、それも束の間、吹き出す汗を拭いながら急

登に誰もが寡黙になる。途中小休止を取りながら約45分で達磨ヶ峰に到着。360度、期待通りの絶景を眺めることが出来た。

今日の山行行程は、登山口から達磨ヶ峰に登り、遠くに見えるフトウガ峰、その向こうの段ヶ峰まで縦走をピストンする山行だ。アップダウンはあるが、笹原の平坦な道は分かり易い縦走路だった。気温は高かったが、縦走路は常時風が吹いていて心地良かった。

12時30分段ヶ峰に到着した。いつもは陽射しを避けて昼食をとるが、立ち止まると寒く感じるので、暖かな陽射しを浴びながら昼食をとった。この日出会ったハイカーは、4人と犬1匹だった。それは多分、平日なのと段ヶ峰登山口までのアクセスが悪いからかも知れないと思った。

長距離を歩いて来たので脚に疲れが出ている。フトウガ峰からの道のりが長いと感じながら黙々と下山する。後、40～50分ほどで登山口に到着となった辺りで最後の休憩を取った時、メンバーの1人がスマホを確認した。すると、「行方不明になっていた小学生を発見。無事に保護された。」という朗報が流れていた。「良かった良かった！！」と、参加者から歓声があがった。それからの下山は心なしか足取りも軽やかに登山口に到着出来たように思えた。

リーダーから山行が近づくと「山行計画書」と山行に必要な資料が沢山送付される。今回は、その中に断面図がありこれを見ると一目でアップダウンがよく分かり、元気に歩けたように思った。頼りになるリーダー、そして楽しいメンバー達と登った「ふるさと兵庫50山 段ヶ峰」山行だった。

■堂満岳1057m(滋賀県大津市)



- 山 行 日：6月4日(土)
- 参 加 者：L本多 SL三木(悦) 尾内 尾越 河合 小山 瀧原 田羅間(易) 矢根
- 行 動 記 録：イン谷口9:25発～ノタノホリ(10:10着)10:15発～堂満岳(12:00着)12:25発～金糞峠(12:55着)～北比良峠(13:25着)13:35発～カモシカ台(14:10着)14:15発～イン谷口(15:00着)

◆◆琵琶湖を眺める堂満岳

河合

湖西線比良駅からのバスの車窓に、近江八景「比良の暮雪」の看板を目にする。以前に見たいちめん菜の花畑の背後に残雪の比良連山が映っていた写真と重なる。ここの風景なのだ。

バスは10分程で終点のイン谷口に着く。人里からとても近い登山口であり、全員が登山客である。ストレッチを終え9:30頃に出発。倒木が多く歩き辛いスタートだ。動物からの保護対策なのか、木々をテーピングした植林道、溝状に削られた登山道が続く。森の中に静寂な大きな池のノタノホリがあり、モリアオガエルの卵塊が枝にみられる。谷筋から尾根をまたぎ、山腹を大きく斜めに切り返しながら登り続ける。いよいよ急登が近い。

ここから300m一気に高度を上げることになる。「高御位山1つ分」という声が聞こえた。難所を控え休憩したところは広く、平らで、これから進むべき稜線が分りにくい地形だ。参加者の大半が運営委員なので、各々が読図を確認をしている。

今迄と違って、木の根を頼りに岩をよじ登り続ける。堂満岳(1057m)の狭い頂上に着くと、ピンクのウツギが満開だ。霞んでいるが、眼前に広がる琵琶湖を眺めながら昼食にする。

山頂付近や尾根筋にはサラサドウダンの紅い花がとても見事である。またシャクナゲの群生地が続き、花の時期はお勧めだ。アップダウンを繰り返し、金糞峠から北比良峠へと向かう。視界が開け、かつて比良ロッジやロープウェイで、観光や登山が賑わった広大な跡地に出る。ここからの琵琶湖の風景は去りがたい。樹林帯のなか、平坦な道やがれきの急な下りを延々と繰り返しながら下山する。途中イワカガミの花を見つけた人がいた。カモシカ台で一服後、大山口の流水で体のほてりを冷まし、バスの時間を気にしながら足を速める。イン谷口に予定通り3時頃に全員無事につく。

琵琶湖の景色を山頂から楽しみ、新緑と花を満喫した山行でした。



■「初めての山歩き教室」実技3回目 平荘湖～飯盛山

- 山 行 日：6月4日(土)
- 参 加 者：CLa 砂川(延) 教室生4名 SLb 山本(正一) 教室生4名
SLc 藤本 教室生4名 SLd 須増 教室生4名
- サポート：乙坂 島谷 土井 西口 橋本(万) 山本(清)
- 行 動 記 録：アクア交流館 13:15 発～平荘湖を周回～登山口 14:30 頃～相ノ山～飯盛山
(15:20 着) 15:40 発～相ノ山～平荘湖東下山口～アクア交流館駐車場(16:20 頃着)

◆◆飯盛山「生命をつなぐ偉大なる指導標」

河崎

曇天の、やや汗ばむくらいに湿度の高い梅雨空のした、コンパスを用いた読図のレクチャーを受けたあと、平荘湖を周遊しながら地形図とコンパスを用いて現在地の確認、および目指す方角への同定。湖岸を一周ののち、北岸方向に位置する相ノ山への頂きをまずは目指す。ところどころ滑りやすい土面があらわになっているものの緩傾斜の歩きやすい露岩帯だ。呼吸を整えるために立ち止まり、後ろを振り返ると平荘湖の全容が眺望できる。

風がでてきたのだろう。小刻みに波間ただよう湖面がうかがい知れる。

地形図に示されている送電線の支となる鉄塔を越え、ほどなくすると相ノ山ピークに到着。晴れていれば展望は良好だろう。重く垂れ込めた灰色の雲と、南方の地平の間隙から



薄ぼんやりと淡路島の稜線が浮かんで見える。雨さえ降らなければいいがと願いながら、次の目的地飯盛山のピークを目指す。

低い木の多い樹林帯の急な下りを経て鞍部にでると、すぐに傾斜のきつい登りになる。再び露岩のコースに変わり分岐を示す指導標があらわれると、あらためて地形図とコンパスを取り出し現在地の確認と向かうべき方角を確認する。

展望の少ない緩やかで退屈な道を歩みながらも、初夏の新緑の香りと、尾根に咲く可憐な白い笹ゆりに癒されながら、やがて、静謐で控えめな印象ある飯盛山のピークに到達。三角点に触れ、眺望のきく直下の岩場に移動して他の仲間たちとともに山座同定を繰り返しながら北東に広がる小野アルプスや神戸方面の低山をしばらく眺めていた。

日々の喧騒を忘れられる瞬間だ。心配していた雨も杞憂に過ぎた。

帰途、登りとは異なるやや東のコースを下る。浮石や露岩の上に滑りやすい石粒があるなど足場の悪いルートを歩くのも悪くない。途中、いい頃合に分岐点を見つけるとやはりコンパスを手に取り地形図と重ね合わせて現在地の確認を試みる。まだまだ覚束ないが、GPS花盛りの昨今において、この超アナログな道具は慣れない山域での確かな、そして何よりも電力を要さない偉大な指導標になることは相違ない。

諸先輩からの指導により正しく身についた此のたびの読図技術は、今後経験するであろう多くの山旅への重要なカタチのない装具として、自身の脳裏あるいは感覚の記憶のなかに刻みこむことができたのではないかと思う。

◆◆6月4日(土)、「初めての山歩き教室」実トレ3回目(平荘湖～飯盛山) 報告：須増

今日の歩きのコースは、平荘湖～相ノ山～飯盛山～相ノ山～平荘湖東の下山口～駐車場です。午前中、アクア交流館での座学(①シルバコンパスの使い方②遭難対策)の終了後、平荘湖の湖畔で弁当を済ませ、13:00集合。ストレッチの後、リーダーごとに四つに班分け、各班毎にスタートして、一番よく使用するコンパスの使い方＝「現在位置から目的地へ方角をセットして歩く」操作をしながら平荘湖を周回。

飯盛山の直下にある岩場の所で休憩&写真撮影を済ませ、播磨灘～明石海峡大橋方面の展望を見ながら下山しましたが、幸いにも雨にも降られず、相の山～飯盛山の途中で、綺麗な笹百合を見ることもできました。サポートの皆さん、ご協力ありがとうございました。



■「初めての山歩き教室」実技4回目 高御位山

- 山 行 日：6月12日(日)
- 参 加 者：La 山本(正一) SL 大谷 島谷 教室生 7名
Lb 垣内 SL 西口 清水 教室生 5名

- 行動記録：みどりの相談所 9:15 発～馬の背・鉄塔出合(9:40 着)9:45 発～縦走出合 10:10
～市ノ池からの縦走出合 10:40～高御位山(11:20 着)11:30 発～北山鉄塔(昼食
12:25 着)12:45 発～新池通過 13:10～市ノ池第2駐車場(13:25 着)

◆◆「初めての山歩き教室」高御位山登山 6月12日(日)に参加して 安田

9時に市ノ池公園に集合。お天気は曇りであるが雨は午後との予報である。

かなり蒸し暑い気温であるが、太陽が出ていない分、楽かなと皆で「良かったのでは？」と言いながら、柔軟体操をして登山道に入る。

予定のコースより、少し大回りとなる稜線に入って行く。少し登ると汗だくになるが、視界が開け、少し風が吹くと心地よかった。

高御位山頂でロッククライマーと遭遇。急な岩場をロープでどンドン下って行く所を見る。これも珍しい物を見せてもらったと感じる。

登ったり下ったりを繰り返して、最後の鉄塔で昼食となった。岩場が多く、注意が必要なので、意外と時間を取ったような気がした。

昼食が済んだ頃か、ぽつぽつと雨が降ってくる気配である。一気に下山し、駐車場に向かう。しんどかったが、以前よりは体力がついたのか、疲れがあまり感じなかった。

リーダーさんや、サポートの皆さん、今日は有難うございました。



◆ 救急救命講習会受講報告

報告：山本(一)

毎年5月例会日の午前中に行っている救急救命講習、今年も加古川防災センターで26名が受講した。

例年受講しているが、少しずつ手法が改善され、簡易に救命処置ができる様に進歩している。

救急車の来られない山行時の事故では、心臓や呼吸が止まった人への救命処置をしないとしないでは助かる確率に大きな差が出る。山に集い、登る私達にとって身に付けておくべき重要な技術と思う。

今年度受講できなかった方は、是非来年度は受講してほしい。

